

# Why Japan Matters

## 日本再発見プロジェクト

### プロジェクト概要

バブル崩壊後、日本は停滞を続け、「失われた20年」にあえぎました。日本の目覚ましい経済成長は、すっかり過去の産物となり、世界の日本への驚きも関心も低下してきました。それとともに、日本の世界への関心と関与も以前に比べ希薄になってきたことは否めません。しかしながら近年、世界各地で起きている混乱によって日本は再び、存在感を取り戻しつつあります。世界の平和と安定と繁栄にとって欠かせない自由で開放的な国際協調体制の担い手としてより積極的に世界に関与し、世界とともに秩序、ルール、標準、規範をつくっていく姿勢を明確にし始めました。

このプロジェクトでは、日本がどのように世界に貢献しているのか、日本の何が世界に求められているのか、また、その潜在力はどこにあるのか、などといった日本の価値を発見、または、再発見することを目指しています。その潜在力が十分に顕在化されない場合、発揮する上で制約となっているのは何か、一体、どうすればそれを発揮できるのかを分析し、建設的な批評と革新的な提言を示します。



小泉進次郎 衆議院議員、自民党農林部会長(ヒアリング会にて)

### プロジェクトの構成

日本再建イニシアティブでは、2015年10月から、著名な知識人、ジャーナリスト、弁護士、そしてコンサルタントで構成される国際的な執筆者のチームを結成、プロジェクト・ディレクターにはニューヨークタイムズ前東京支局長のマーティン・ファクラー氏を迎え、Why Japan Matters (WJM, 日本再発見) プロジェクトを発足させました。「自由で開放的な国際協調主義」を支えるグローバル・シビリアン・パワー外交、インバウンド観光、レジリエンス、コーポレート・ガバナンスの改革から国際的に注目されつつある日本のデザイナー、職人やシェフなど、幅広いテーマでの執筆を通し、グローバルに魅力ある日本を再発見しようと考えています。私たちが目指すのは、「クール・ジャパン」キャンペーンではなく、これまでほとんど着目されていなかった「宝の持ち腐れ」の部分に光をあてることです。

### Project Members

阿部大輔 (ハイコンサルティンググループ コンサルタント)  
ダニエル・アルドリッチ (米ノースイースタン大学教授)  
ダイナ・バントロック (カリフォルニア大学パークレー校教授)  
細谷雄一 (慶應義塾大学教授)  
井形彬 (慶應義塾大学大学院法学部 博士課程)  
稲垣佳奈 (フィナンシャルタイムズ 東京特派員)  
石川善樹 (キャンサースキャン イノベーションディレクター)  
加藤史子 (じゃらんリサーチセンター 主席研究員)  
ローランド・ケルツ (慶應義塾大学文学部 訪問研究員)  
小島隆史 (経営共創基盤 プリンシパル)

隈研吾 (隈研吾建築都市設計事務所 建築家)  
榎田健児 (スタンフォード大学アジア太平洋研究所 研究助手)  
ジェニファー・リンド (米ダートマス大学 准教授)  
毛丹青 (神戸国際大学 教授、作家)  
三浦瑠璃 (東京大学 客員教授)  
森泰子 (慶應義塾大学経済学部)  
塩崎彰久 (長島・大野・常松事務所パートナー弁護士)  
潮田容子 (LIXIL)  
山本雄士 (ミナケア 代表取締役・医師)



キャシー・松井  
ゴールドマン・サックス・ジャパン副会長



マーティン・ファクラー  
日本再発見プロジェクト・ディレクター



ウォレン・スタニスロース  
日本再発見スタッフ・オフィサー

プロジェクトに関するお問い合わせはこちらまでご連絡ください: [whyjapan@rebuildjpn.org](mailto:whyjapan@rebuildjpn.org)